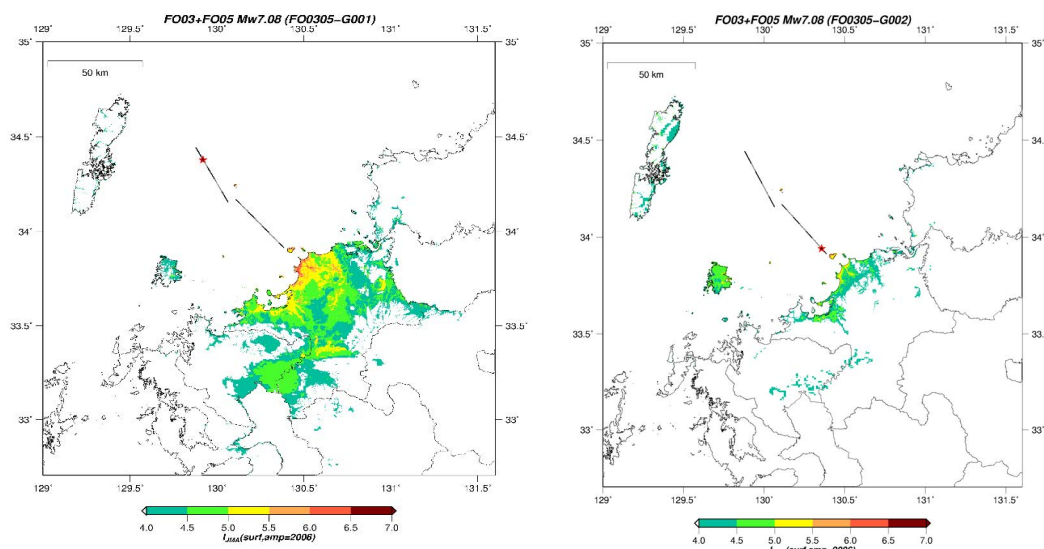


東北日本背弧域の震源断層モデルに基づく強震動予測

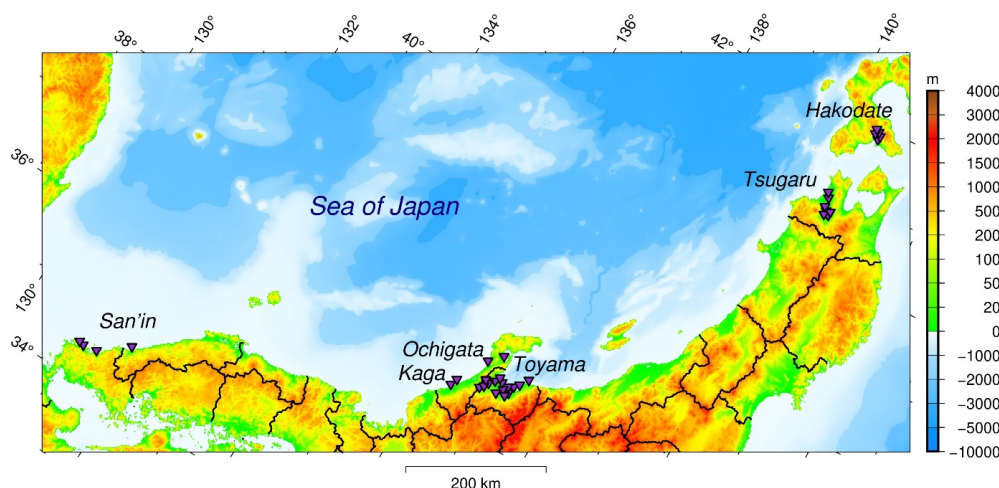
岩田知孝・浅野公之（京大防災研）・大堀道広（福井大学）

(1) 構築された北海道沖、青森沖～佐渡沖、富山沖、福井沖～鳥取沖、島根沖～五島列島沖、各沿岸地域等の震源断層形状モデルにもとづいて、強震動予測のための震源断層モデルを設定し、強震動予測を行った。



(1) 強震動予測の例：福岡沖の震源断層（Mw7.1）が活動した場合の陸域の震度分布。断層帯の北西から破壊が始まった場合、陸域の広い範囲が強い揺れに見舞われる一方、南東から破壊が始まった場合は陸域の強く揺れる範囲は狭くなり、対馬で揺れが大きくなる。これらは破壊シナリオとしての破壊伝播効果の違いによる。

(2) 地盤の速度構造情報が十分でない日本海側の平野微動アレイ観測等を行って、対象地域の地下速度構造モデルの高度化をすすめた。



(2) ▼が本調査で実施した微動アレイ観測点。成果は全国地震動予測地図作成に用いられているJ-SHISの地下構造モデル更新時に利用される